言葉で感じる季節

春隣

はるとなり

寒さが厳しい中にも、春の訪れや兆しを感じる時期のこと。
冬も終わりに近づき、春の気配がどことなく漂う様子を表している冬の季語です。
少し和らいだような陽射しがさしていたり、なんだか控えめな雨が降っているなと感じたり…
畑で感じる自然のささやかな変化に嬉しい心持ちです。

昨年のこの時期、霜害や日照不足による生育不良に悩まされていました。今年も、状態の悪い葉を落として調整したり、選別に時間をかけている現状。貴重な原料を大切にします。

古都・事・言　3つの「こと」を伝えます

ことねずだより

NO.190
2023年3月号
TEL：075-601-0668
こと京都株式会社

KOTO GROUP 4A

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

春先に向けて、最後の冬葱お届けです

昨年の10月頃に定植を行った、亀岡市・京都市の圃場で育ったねぎをお届け。毎年10月の定植作業は時間との戦いです。春先の収穫に間に合わせるためには、10月1週目までに植えないといけないというのが、京都での一般的な経験則です。畝立てや苗の準備など、いつも以上に急ピッチに行う必要があるため、1年の中で最も忙しい時期だったことを思い出します。農人たちの頑張りの結果でお届けできます。冬の寒い時期を過ごし、甘みのある美味しいねぎに育ってくれました。

農人たちの畑での作業の様子、THE農業！の現場の「こと」を発信

トンネル被覆の資材回収。キレイに畳んで来年も使用します。

振り返る冬、まもなく春の到来

丹後エリアでは、片付けのための畝潰しも兼ねた耕起作業を2月半ばに行う予定でした。しかし、雪が溶けてからまだ間も無いタイミングだと気温も低いため乾かず、足が沈むほど泥濘んでいる状態。圃場をあまり触らない方がよいと判断し、気長に待ちつつ、乾けば直ぐに作付けまで出来るよう準備と計画を進めました。雪が積もった美山エリアでも、降った雨と翌日の晴れの天候のおかげで雪解けが進みました。と思えば、また雪予報が出たり…もう雪は降ってほしくないなと思うのと同時に、あまり降らないのも春先の河川の水量にも影響が出てしまうことも、山間地域としては心配することも。今月からは順次畝立て作業が始まっていくので、それまでには各エリアの春先の作業に影響出ない環境コンディションになってくれたらと願いました。

気温もあたたかくなると、草木や虫たちもイキイキとし出し、私たちの作業予定も慌ただしくなります。春以降のねぎ作りも頑張っていきます！

とある日の農人日記。

冬に活躍したトンネル被覆内の雑草が、週ごとに比べ青々と茂っている様子を伺い、土にとってもようやく肥料が吸いやすい気温帯になってきた事、春の訪れを感じました。（市内エリア・甲斐）

1DAY 350g 野菜を食べよう プロジェクト

こと京都は「野菜を食べよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組みます。